

前線における岩屋ダムの防災操作について(速報)

(馬瀬川(東沓部地点)の水位を1.2m低減)

本州南岸の前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、岐阜県では大気の状態が非常に不安定となり、岩屋ダム流域で激しい雨に見舞われたため、防災操作を実施しました。

岩屋ダム流域では、8月16日の深夜から雨が降りはじめ、流域平均の雨量は212ミリを観測し、流域平均の最大1時間雨量は17日7時に36.5ミリを観測しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池へ流れ込む水の量が17日11時20分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため防災操作を開始し、19時40分に流入量が最大(毎秒414立方メートル)となり、毎秒227立方メートルをダムに貯留しました。

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダムの放流量	同時刻におけ るダム貯留量
岩屋ダム	212mm	平成27年8月17日 19時40分	毎秒414 m ³	毎秒 187m ³	毎秒227m ³

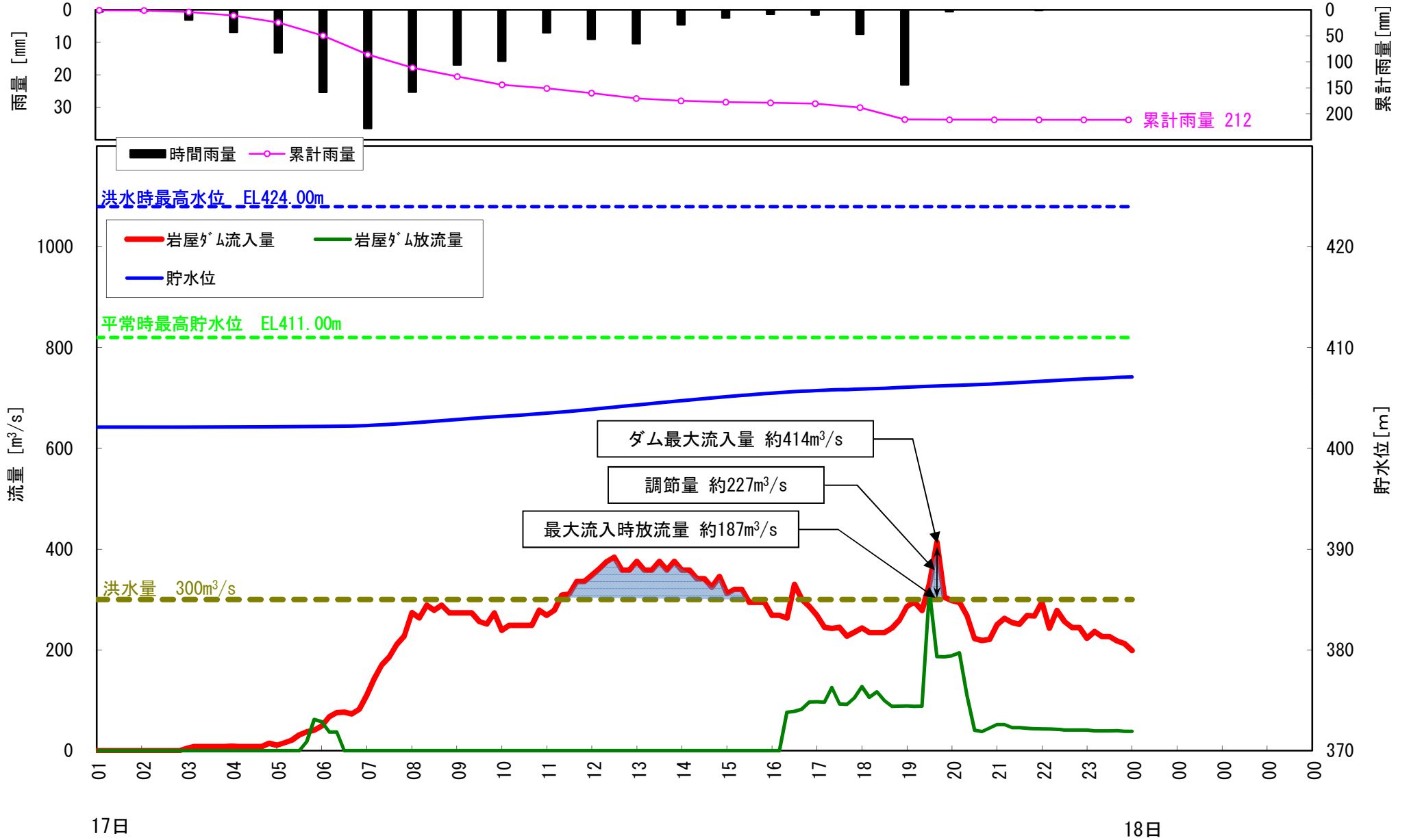
今回の防災操作により、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)では、約1.2メートルの水位低下効果があったと推定されます。

東沓部地点※の水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 東沓部地点の河川水 位	ダムがなかった場合 の同地点の最高水位	水位低減効果
平成27年8月17日 9時00分	3.7m	4.9m	1.2m

※ 東沓部地点 ダム下流約9.3km、飛驒川本線合流前約7.5kmの地点

所在地 : 下呂市金山町東沓部字前田会津 1458

岩屋ダム防災操作 [平成27年8月17日 洪水]



岩屋ダム 水位低減効果（東沓部地点）

左岸

右岸

ダムによる水位低減効果 約1.2m

ダムがない場合の最高水位 約4.9m（推定）

平常時の河川状況（東沓部）

実績最高水位 約3.7m



※東沓部地点：岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
（住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458）